



コミコミスク

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 161

2022

6.7

## 今年学校運営協議会で学校教育目標をじっくり熟議してみるのはいかがですか？

先日、ネットで面白いページを見つけました。それは「学校教育目標と校長のリーダーシップ」(天笠茂千葉大学特任教授 ぎょうせい教育ライブラリ)というページで、“高邁な教育理念を掲げておくだけでよいか”といった文言が目飛び込んできました。私自身、コミュニティ・スクールに取組み始めて学校教育目標の持つ意味を考えるようになりました。学校教育目標が学校の最上位の目標として、地域の皆さんや保護者の皆さんと一緒に協働できる目標になっているか、その目標の達成に向け、学びの仕組がデザインされるような目標にならないといけないと感じるようになっていただけに、“高邁な教育理念を掲げておくだけでよいか”改めてインパクトのある言葉でした。

そこで、市内の小・中・養護学校の学校教育目標を見てみようと思い、各校の学校教育目標を一覧に整理してみました。その中で学校教育目標について大きく分けるとスローガンのタイプ、達成目標タイプ、知・徳・体伝統的タイプに分かれるのかなと感じました。

使われている言葉ベスト5に整理してみると次のようになりました。

明石の小学校・中学校の学校教育目標に含まれる言葉ベスト5		
	小学校	中学校
No.1	たくましく(強く)生きる たくましく…	たくましく(強く)生きる たくましく…
No.2	豊かな心 心豊かに	豊かな心・心豊かに 生きる力
No.3	自ら学ぶ 主体的に学ぶ(行動)	
No.4	夢 希望	グローバル社会
No.5	子ども輝く いのち輝かせ 未来	子ども(生徒)が輝く いのち輝かせ 未来

コミュニティ・スクールの推進の中で学校運営協議会の大きな役割として学校経営案の承認があります。その学校経営の柱になるのが学校教育目標です。その学校教育目標の達成に向け子どもの育ちに関わるもの全体を視野に入れ、それぞれの学校の実態や特性を考えながら教育活動全体をデザインしていくのがグランドデザイン(学校教育全体構想図)だと考えます。グランドデザインに沿って教育活動をデザインし、子どもたちが育つ環境や仕組が見える化したものが教育課程だと考えています。

「社会に開かれた教育課程」が求められているのは、学校だけでなく、地域の皆さんや保護者の皆さんと熟議をする中で学校教育目標を形にしていくことで、“自分たちの地域、自分たちの地域の学校”という意識を高め、“地域のみならず、未来を生き、社会を担う子どもたちを育てる”といった当事者意識が、持続可能な社会を創っていくためには欠かせないからだと考えます。ちょっと大げさといわれそうですが、学校教育目標は学校の目標ではなく、社会を創っていく目標といったような発想の転換が必要なのではと思います。

## 発想の転換

すべての子どもたちを

まちのみんなで

本気で応援すれば

まちのみんなが幸せになる

誰一人取り残さない

子どもはまちの子

子ども目標

あれもこれも全部やる

まちの発展につながる

市長選に初出馬したときからの変わらぬ思い

14

そういった意味で、コミュニティ・スクールは子どもを育てるという目標に向かって“当事者意識”を持った人を育て、“当事者意識”を持った人をつなぐ仕組みだと考えています。明石市が目指す“子どもを核にしたまちづくり”はサービスの受け手としてだけでなく、子どもたちを育てる当事者意識を持った人の広がりが必要なんだと思います。

(←日本記者クラブ泉市長講演資料より)

明石の小学校にコミュニティ・スクールが導入され3年、中学校に導入され2年が経過しました。コロナ禍の影響もあり、コミュニティ・スクールを推進することは難しかった状況が続きましたが、コロナの影響で難しいというのではなく、今年1年、学校と地域の皆さんと保護者の皆さんで学校の課題、地域の課題を洗い出しながら未来を生きる、地域社会を担う子供たちが育つ環境・仕組みについて熟議を積み重ねていくのはいかがでしょうか。そのことが、「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けての大きな一歩になると考えています。明石市にはコミュニティづくりに取り組んできた長い歴史と土壌があります。学校を地域コミュニティへの入り口として考え、子どもたちを通して人をつないでいくことにより、子どもたちの成長だけでなく、当事者意識を持った大人として私たちも成長していくのではと考えます。市内の学校の中にも、コミュニティ・スクールを推進するにあたり、“なぜコミュニティ・スクールなのか”といった根本について改めて熟議の必要を感じ、夏休みに教職員と地域の皆さんと保護者の皆さんでの熟議を計画されている学校もでてきています。学校運営協議会でまず“高く掲げるにとどまる学校教育目標”を、保護者や地域の皆さんにとっても、“活きた目標”として身近な存在としていく熟議を始めていかれるのはいかがですか？学校運営協議会のメンバーだけでなく、学校運営協議会をオープンして、熟議に参加する人を呼びかけてもることありなのではと思います。そんなことが今年始まればいいなと思っています。

学校教育目標を考えるにあたり、中教審答申でこれからの時代に求められる人間の姿が次のように書かれています。

- ・社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を拓いていくことができること。
- ・対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。
- ・変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

一度ご自身で学校教育目標をこうした視点を持ちながらじっくり見直されてみるのはいかがですか？そこから対話が始まるかもしれないですね。

※参照・引用 「学校教育目標と校長のリーダーシップ」

(天笠茂千葉大学特任教授 ぎょうせい教育ライブラリ)

<https://shop.gyosei.jp/library/archives/cat02/0000001042>

(文責：北本)